

# 芸術と教育Ⅶ

## — 国文祭 障文祭なら2017への参加を通しての表現力の育成 —

筒井 通子

奈良学園大学奈良文化女子短期大学部

### Art and Education Ⅶ Cultivating Expressive Power through Participation in *National Culture Festival* — *Disabled Culture Festival Nara 2017* —

Michiko Tsutsui

*Naragakuen University Narabunka Women's College*

幼児教育に携わる教員となる際には、最低限必要な基礎的・基盤的な知識・技能を身に付けることが必要である。そして、教員自身が豊かな感性や表現力をもち、伝統と文化を尊重し、国際社会の平和や発展に寄与することによって、生き生きと自信をもって幼児教育に携わることができる。

第32回国民文化祭・なら2017 第17回全国障害者芸術・文化祭なら大会（以後、国文祭・障文祭なら2017と記述）の応援事業「芸術と教育」展への参加によって、幼児教育の指導者としての「表現力」が付き、地域社会の伝統・文化を知ることにつながる術を考察した。

キーワード：芸術と教育、応援事業への参加、表現力、鑑賞教育、第32回国民文化祭・なら2017、第17回全国障害者芸術・文化祭なら大会

## 1. はじめに

幼稚園教育要領が、平成30年度から実施される。これからの幼児教育は、子ども主体の遊びや活動を通して子ども自らが学ぶことが求められる。幼稚園教育要領（平成29年告示）の前文第1章 総則 第2に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿「10の姿」」があるが、その（10）に「豊かな感性と表現」がある。「心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。」とある<sup>1)</sup>。基礎的な知識や技能の獲得とともに、「感じる」とか、「感じとる」という感覚面を体験的に学んでいくことや、「伝える」「表現していく」ということが重要であると考えられる。

幼稚園教育要領の改訂に伴って重要なのは、保育者の資質・専門性を高めることと家庭や地域との連携を深めることが大切になってくる。

保育者は、幼児期にふさわしい生活の展開をし、遊びを通しての総合的な指導をすることが重要である。幼稚園教育要領第1章 総則 第1「幼稚園教育の基本」の内容の趣旨に「幼児の発達は、心身の諸側面が相互に関連し合い、多様な経過をたどって成し遂げられていくものであること、また、幼児の生活経験がそれぞれ異なることなどを考慮して、幼児一人一人の特性に応じ、発達の課題に即した指導を行うようにすること」<sup>2)</sup>とある。

保育者の役割は、幼児一人一人の行動の理解と予想に基づき、計画的に環境を構成したり、物的・空間的環境を構成したりしなければならない。それには、まず、保育者が豊かな感性や表現する力をもつことと、体験を通して、「協働性」や「同僚性」を高めていくことが重要である。それらを高めることによって、今回の改訂で大きなポイントになっている「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿「10の姿」(1) 健康な心と体 (2) 自立心 (3) 協同性 (4) 道徳性・規範意識の芽生え (5) 社会生活との関わり (6) 思考力の芽生え (7) 自然との関わり・生命尊重 (8) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 (9) 言葉による伝え合い (10) 豊かな感性と表現 (以後「10の姿」と書く)」に意識して取り組んでいける。

また、幼小連携を推進していくことが重要事項に挙げられている。ここでも「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の共有を図ることが重要である。「豊かな感性と表現」を育てるには、幼小間での作品の鑑賞教育を取り入れたい。

筆者は、独立行政法人国立美術館が行っている「美術館を活用した鑑賞教育についての指導者研修」の一期生である。この研修を受けてから本年度で13年目となる。その後、平成20(2008)年、国際美術教育学会(InSEA 世界大会 in 大阪2008)で筆者は「小学校教育の中での美術教育の重要性」を述べた。そして、この12年間、「鑑賞教育」の重要性と「芸術と教育」の関連性を「芸術と教育Ⅰ～Ⅶ」として検証するとともに、保育者になろうとする者への「鑑賞教育」を行っている。

「鑑賞教育」の充実に関する研究は、2005年から現在に至っている。それは、人格形成の一翼を美術教育が担っていると考えからである。(図1)は、書道、絵画、造形表現「新聞紙で制作した犬」を活用して教育する一例である<sup>3)</sup>。

保育者になろうとする者が、「国文祭・障文祭なら2017」に参加するための制作活動をすることによって、よりよい作品作りのために予習をしたり、情報を収集したりして、造形の基礎を身に付けることができる。また、それらを表現していく中で、豊かな感性や表現する力が育成され、我が国の伝統や文化、郷土を知る一つの方策となることを提案する。



図1 「芸術と教育」

## 2. 表現力の育成の工夫

### 2.1 「表現力とは」

「感じたこと」や「考えたこと」を相手に自分なりに伝える能力が幼児に育成すべき表現力である。

その「表現力」とは、今回、改訂の「10の姿」(前述<sup>1)</sup>)にもある様々な素材の特徴や表現の仕方に気づき、友達同士で、表現をする喜びを味わい、楽しみながら相手に自分の思いを伝えられることである。また、その表現活動をするまでの過程が大切である。

#### 2.1.1 保育者の表現力

保育者が、幼児に表現力をつけるために、幼児の主體的な活動を大切にしつつ、適切な環境の設定や指導の工夫を行う必要がある。そのためには、保育者自身がいろいろな素材に触れ、表現の仕方に気づき、感性を豊かに働かせ、表現の喜びを楽しむことが重要と考える。

また、改訂の内容にもある協同性については、保育者になろうとする者がその養成機関で体験しておくことが重要である。充実した教育や実践がなされている園では、保育者どうしのコミュニケーションが多くもたれている。また、お互いに相手の表現されたものを鑑賞したり、語り合ったりすることによって、より優れた表現ができるようになる。

全国で初めて障害のある人となない人が一体となって開催される「国文祭・障文祭なら2017」の応援事業に保育者や保育者になろうとする学生が参加をする(図2)。



図2 応援事業への参加



図3 内容の説明

保育者になろうとする学生は、「奈良の文化や歴史」の表現をするための情報収集でいろいろな場所に行ったり、その場所の方々に由来を尋ねたりしている。そのことを通して、「奈良の文化や歴史」を知ることができる。また、情報収集のために集団行動をすることによって、協同性やコミュニケーション能力も培える。

制作に関しては、自らが表現する力や方法を知ることによって幼児の表現力の育成につながる。

応援事業「芸術と教育」展に参加するための制作を意欲をもって取り組むためには、内容を理解することが重要である。国文祭・障文祭なら2017のパンフレットをや広報されている情報を読み、また、筆者の説明を聞いて概要や趣旨を知る(図3)。

また、保育者の表現力の育成では、色彩感覚を豊かにすることによって、それが幼児への指導力にもつながる。幼児の生活の環境設定を行う時にも役立ってくる(図4-1)(図4-2)(図4-3)。



図4-1 色環の制作



## 2.2 保育者の鑑賞教育

対話型鑑賞は、指導者が鑑賞者と共に対話を行いながら作品を読み解いていく鑑賞方法であるが、これを制作者同士で行う。

これは、幼児が鑑賞をするための環境設定の仕方を知る方法の一つにもなる。作品を鑑賞する楽しさを指導者が味わい、相手の作品のよさや自分とは、異なった表現方法に気付き、よりよい表現ができるようになる。また、身近な人物の制作したものを展示・鑑賞することで、親近感をもちながら、感動、共鳴、共感をし、次に表現することへの意欲にもつながる。

鑑賞を行った後では、幼児に友達作品を見せることの大切さや、配色の工夫で表現が豊かになることに気付けた(図5-1)(図5-2)。



図4-2 補色・類似色の作品



図4-3 色の組み合わせ



図5-1 内容の説明



図5-2 作品の鑑賞

## 2.3 「芸術と教育」との関連

国文祭・障文祭なら2017の応援事業への参加を通して、制作過程や鑑賞が、これからの幼児教育の学びとなる。「身近な環境」という言葉が幼稚園教育要領で多く使われている。それは、「自然」であったり、「生活」であったり、「伝統と文化」でもある。それらを「豊かな感性」で表現していく中で「思考力」、「創造力」やがては「問題解決能力」をも、もつことへと進んでいける。

「芸術と教育Ⅰ」で、芸術を通して「豊かな人間性の育成」と「人権教育の推進」をする方策の一つを提案した。そこで、「美術館の活用」をあげて、美術館の本来の機能を生かしながら、自他の生命と人権の尊重をアレルギーの飼育犬の絵画「じろこ」を展示したコーナー(図6)で提案した。

地域の小・中学校の障害児学級の児童生徒の作品を展示することによって、共に「芸術と教育」展を地域に発信していく。幼児教育の基本である人権教育について芸術を通して国民及び県民、地域への認識を深めていく。アレルギーと脊髄損傷になった「新聞紙で作っ



図6 障害のある犬「じろこ」の絵

以下に作品制作の過程と感想を示す（図8）（図9）（図10）。

[illegible]

奈良に関連する素材を集めるために、奈良の名所や食べ物について調べて初めて知ったことをたくさんあり、新しい発見をしました。奈良の熊や動物と紅葉の写真がとてもきれいに撮ったので、今回の作品では、その写真をたくさん活用しました。色紙の出来上がった作品を飾った後、車に載せました。作品づくりのアイデアを出すことができました。熊をきれいに絵で表現しようという、切り抜いた紙を使い、背景に紅葉を使用し、奈良の素材だけを使った作品を完成させることに成功しました。自分の暮らしと、地域以外の人や文化やお祭りに関心を持ち、実際に訪れてみたいと思える場所を見つけたことが、とてもよい学習成果だと思います。新聞と紙袋のアイデア使用した点は、ほめて自由な表現を取り、好きなところにカラー貼るといふ、自分からやり出すように表現できる点、自分だけの作品を作ることができ、子どもたちをおいしく楽しませてくれるのではないかなと思います。

今回私は初めて、アヒルとフーゴという言葉を知りました。念頭に  
ついてもなかなか調べていると、知らないことが沢山あり、改めて奈  
良にはこういうものがあるといふことが分かったので、良かたで  
まごの写真を使って、どうしよう風に切ったり、貼ったり、色紙に貼るの  
をええことが大変でした。おかげで、切ったり貼ったりするのは、もう  
慣れてきました。作り終えると以外に上手にできたので、良かたで  
またお礼に「かわいい」「すごい」と言われ、とてもうれしかったです。  
アヒルとフーゴとアヒルにあひ、アヒルの人達が、あかしたてている  
と先生がうれしく、お礼なのでその人達にも感謝します。

フォトモンタージュをしたことで、奈良についていろいろ知ることができました。  
自分の作品をつくる上で奈良の歴史や文化について知り、改めて奈良の歴史が  
わかったと思ったし、奈良の様子はきれいなと気付くこともできました。  
また、友達と一緒に見ることで、自分が調べていない奈良についても知る  
ことができました。コラージュをするとてもオシャレだったのが、自分看  
になってからも使える方法だなと思いました。子どもたちも大抵、取り合  
いながらの作業が多かったです。この経験は、今後の活動に役立ちます。  
これまでもたくさんの経験を積み重ねてきました。これは貴重な資料を集  
めて大切に作るという作業です。その中で、簡単に楽しく取り組めることができ  
ました。これからも多くの経験を積み重ね、元気に活動していきたいです。

技法に関しても、子どもへの指導の仕方まで関心をもつようになった。



### 3. 地域への発信

#### 3.1 ギャラリーの活用

応援事業「芸術と教育」展の発表を地域の方々にも鑑賞していただい、制作者の表現の場と捉え、「ギャラリー夢&トーク」と名付けたギャラリーと「芸術と教育」を研究するための施設「奈良芸術と教育研究所」（HP:<http://narageijututokyoyouiku.amebaownd.com>）にする。これは、筆者の施設であり、自由に展示することができる（図11）。



図11 「ギャラリー夢&トーク」写真左  
「奈良芸術と教育研究所」写真右

#### 3.2 内容と方法

国文祭・障文祭なら2017の趣旨に則った展示内容にする。

作品は、「奈良の文化、奈良の歴史」をコラージュで表現したものにする（図12）。

その制作過程の中で保育者や学生の表現力の育成をし、次期改訂内容の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿「10の姿」」に迫る。

また、地域の小・中学校の障害児学級の作品を展示し、その作品を通じて障害者教育の理解を深めていく。学生も鑑賞し、野菜を使った作品に感動することができた（図13）。筆者も、展示していただけた地域の小学校の校長、教頭、担任に情報の提供をいただき、今後の教育に役立てることができる。

学生、幼稚園教員、地域の方々、地域の学校とが、この「芸術と教育」展への展示を通じて連携ができ、コミュニケーションができ、地域への発信にもつながる。

また、地域の方々に「いつまでも若々しく生きる」を目標とした右脳活性絵画教室の生徒の絵画作品も展示し、学生が鑑賞をし、作者と会話をして交流ができた（図14）。



図12 学生の展示作品を鑑賞



図13 障害児学級の展示作品



図14 学生のギャラリートーク

他、県外、海外作品を展示し、学生や教員が鑑賞することによって、幼稚園教育要領 第2章 ねらい

及び内容 5「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。」<sup>4)</sup>に迫る。

### 3.2.1 作品展への工夫

学内の造形教室で全員の作品を鑑賞し、ギャラリーで展示する作品を学生自身が選択する。評価基準は、「鑑賞して、作者の意図が伝わり、感じる事ができた表現力豊かな作品」とし、高評だったものを、筆者を含めた数名で選択し、ギャラリーに展示をした。また、それら以外の作品もギャラリーでみていただけるように展示コーナーに置いた。

このことによって、制作段階で「伝え、表現する。」ことへの関心意欲が高まる。

また、国文祭・障文祭なら2017の応援事業を見に来られる多くの方々に鑑賞していただけることによって、制作意欲の向上にもつながる。好きな作品を参加者に選んでいただき、学生の今後の参考とする(図15)。

学生作品と地域の方のご意見の一部である(図16)。



図15 学生の作品に投票



図16 学生の作品

- ・大仏様とバックの対比がすばらしい。
- ・かわいい大仏様ですね。ますます好きになりました。
- ・細かく表現されていて感心しました。
- ・奈良の四季をおもしろく味わえました。
- ・奈良市だけではなく、奈良県のいろいろな地域のことが作品にされていてよかった。

## 4. 成果と考察

今年は、32年目で初めて国民文化祭が奈良県で開催される年であり、全国障害者芸術・文化祭なら大会と一体化されての開催は、全国初であった。この記念すべき、文化祭の応援事業に造形作品を地域のギャラリーに展示するということに学生は、予習や情報収集に意欲的に取り組むことができた。

国民文化祭の概要にある「奈良の文化・芸術を全国に発信できる貴重な機会」と捉え、趣旨である「よ

り、文化活動への参加の意欲を喚起し、新しい芸能、文化の創造を促し、併せて地方文化の発展に寄与するとともに、国民生活のより一層の充実に資することを目的とする」<sup>5)</sup>にも迫ることができた。

学生の意欲の喚起のために32年間で全国で初めて2つの文化祭が一体化して行われること等を話した。学生は、資料の収集や、制作過程で奈良の文化、芸術の多くを知ることができ、情報の収集や、制作過程で周りの人々、地域の方々と交流でき、コミュニケーションが取れた。作品の展示で他者の作品を鑑賞することによって鑑賞教育にも繋がっていく。

この国文祭・障文祭なら2017応援事業「芸術と教育」展に参加することによって今回、改訂の「10の姿」の指導に役立てることができる。

## 5. まとめ

7年間にわたって、「芸術と教育」を関連させて教育することへの意義について研究を続けてきた。鑑賞教育を中心とした、ギャラリーの活用も3年目である。その年に第32回国民文化祭・なら2017 第17回全国障害者芸術・文化祭なら大会の応援事業「芸術と教育」展に保育者や保育者になろうとする本学生が展示内容の作品を発表できた。

国文祭・障文祭なら2017の概要で「奈良の文化・芸術を全国に発信できる貴重な機会」と捉えられている。制作者が、奈良の文化を知って、情報を得て制作に入る。そのことが、保育者としての資質にも繋がっていった。文化活動への参加の意欲も、より多くの地域の方々にみていただき、地方文化の発展に寄与していると捉えることで、とても高まり、今まで以上に学生は、事前調査や調べ学習、情報収集をすることができた。そして、今後、保育者になったときにそれらを表現活動等で伝えていきたいと「学生の感想」で述べている。これは、改訂された保育内容に取り組む重要な資質・専門性になっていく。

自分の表現したいものを、見る側に「伝える」ことは、自己の表現能力を高める。そのために地域のギャラリーでの鑑賞も推進してきたが、「国文祭・障文祭なら2017」への参加で、より多くの方々に鑑賞をしていただき、投票箱も用意したので、貴重なご意見もいただいた。これらを参考にすることによって、より豊かな感性や表現する力が養われたと思われる。

また、参加していただけた団体のお陰で多くの作品を鑑賞でき、表現は皆が違っていてそれを認め合え、自分の感覚を安心して表現できる場の設定が重要であると学生が気付けた。

これらのことから、保育者として、また、保育者になったとき、表現力の育成、鑑賞教育、芸術と教育の関連が重要であるということを理解できると期待している。



## 6. 謝辞

第32回国民文化祭・なら2017 第17回全国障害者芸術・文化祭なら大会実行委員会事務局、奈良県、奈良県教育委員会、奈良国立博物館、奈良県立美術館、葛城市教育委員会、橿原市教育委員会による情報提供や資料をいただいたこと、地域で情報発信をしていただけたことに心より感謝申し上げます。

### 引用文献

- 1) 文部科学省 (2017) 幼稚園教育要領比較対照表 P7
- 2) 文部科学省 (2017) 幼稚園教育要領比較対照表 P4
- 3) 奈良学園大学 奈良文化女子短期大学部紀要「芸術と教育Ⅰ-Ⅵ」：第42-47号
- 4) 文部科学省 (2017) 幼稚園教育要領比較対照表 P2
- 5) 奈良県国民文化祭趣旨 (2017) インターネット <http://www.pref.nara.jp/item/134458.htm>

### 参考文献

- 1) 筒井通子 (2016) 「芸術と教育Ⅵ」奈良学園大学奈良文化女子短期大学部紀要 第47号：95-102
- 2) 筒井通子 (2015) 「芸術と教育Ⅴ」奈良学園大学奈良文化女子短期大学部紀要 第46号：151-159
- 3) 筒井通子 (2014) 「芸術と教育Ⅳ」奈良学園大学奈良文化女子短期大学部紀要 第45号：149-156
- 4) 筒井通子 (2012) 「芸術と教育Ⅱ」奈良文化女子短期大学紀要 第43号：87-95
- 5) 筒井通子 (2011) 「芸術と教育」奈良文化女子短期大学紀要 第42号：67-78
- 6) 筒井通子 (2008) 国際美術教育学会誌2008「小学校教育の中での美術教育の重要性について」7pp  
インターネット <http://www.insea.org/>
- 7) 筒井通子 (2008) 教育美術P44. 財団法人教育美術振興会
- 8) 内閣府 文部科学省 厚生労働省 (2017) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領
- 9) 厚生労働省 (2017) 保育所保育指針

